

北区民まちづくり会議 環境・都市デザインの分野に係る部会

日 時 平成26年10月31日（金）午後1時から午後2時30分
場 所 北区役所大会議室

【主な発言】

○委員

上賀茂，西賀茂地区は，畑が多いが，散歩の際の犬の糞やごみが捨てられているのが目立つ。注意喚起の看板をつけているが，あまり効果がない。畑が汚されると悲しい。何とかならないものか。

○部会長

周辺住民の意識が大切である。

○まちづくりアドバイザー

北区の自然環境の中で，田畑の存在は重要である。

○事務局

不法投棄に関しては，北区役所が中心となり，関係機関で組織する不法投棄防止対策協議会で対策を検討しているほか，今年度，市民しんぶん区版で連載記事を掲載している。抜本的な対応が困難な状況であるが，知恵を出し合って対策を検討していきたい。

○部会長

基本計画の考え方の中で，自然環境の緑の定義の中に，畑も入れていく必要があるのではないか。ごみの問題は，街中にごみ箱をたくさん設置するとごみが増える。減らしすぎると散乱ごみが増えてくる。そのバランスをうまく考える必要がある。

○委員

自分の家や自分の町内の前では，ごみは捨てない。遠くなら捨ててもいいという意識がある。畑でなくなってもどこかで増えたら意味がない。対処療法ではなく，ひとりひとりの環境への意識を高めていくことが必要である。最近，公園があまり活用されていない。公園の必要性を考えていくべきである。

○委員

区画整理地区内は，公園が多い。約200メートルおき位にある。公園を見ていると，人が多くて賑わっているところと，全然いないところがある。人がいないところは，草がボーボーに生えて手入れがされていない印象である。

○副区長

200メートルおきなら活動の範囲内なので，遊具の充実しているところなどに人が集まるのではないか。

○部会長

パブリックスペースを検討する際，人間の目線，見守りが届くところは，安心・安全の好循環が生まれる。できないと犯罪につながることもある。

○副区長

人の目は大事である。目線があるところは、街がきれいでごみの問題も起こらない。京都市の有料指定袋が定着したのは、地域の目線というのが大きな要因となっている。

○委員

防犯カメラがあると安心であるかというのはそうではない。見守りしている人だけが安全というわけでもない。幅広い世代の人がいて、いろいろな目線があるというのが、安心・安全につながるのではないか。

○副区長

鴨川は京都市民の誇りで、みんながきれいにしようという意識が働く。そのように、北区の大事な場所であるという意識の共有を図っていくべきである。

○委員

散歩するときにごみ袋を持って行って、ごみを捨てる活動をしている人もいる。家に持って帰ると有料指定袋に捨てないといけないが、捨てることのできる場所を作ること考えられないか。そういう人が増えれば、街はきれいになると思う。

○まちづくりアドバイザー

ごみを捨てる時、自分とは関係のない遠いところに捨てるという意識が働く。こういう考え方を何とかできる方法はないかと思う。

○副区長

市営住宅も比較的若い世代が住んでいるところと高齢化しているところがあり、若い世代が多いところは、公園も賑わうなど、住む人の違いによって、雰囲気が変わる。

○委員

高齢者ばかりいるからだめなわけではなく、住民どうしが声掛けなど積極的に行っていくのが大切だと思う。

○副区長

自分とのかかわりをどう考えるか。自分達のものという意識が働いていると良い状態になると思う。

○まちづくりアドバイザー

食べ物が育っている畑が汚いというのをみんながあかんとおもってもらえるかが重要である。

○委員

畑仕事をしているといろいろな人と関わるが、おそらくごみを捨てる人は、畑に全く興味がない人ではないかと思う。やってはいけないことだとしっかり啓発していくのが、やらないという意識につながると思う。

○委員

5月30日は、「ごみゼロ」の日。小学校、中学校では取組をしているが、学区全体、区全体に広げていければよいと思い。新しい取組をあえて作るのではなく、今あるものを活用してよりよい取組にしていけばよいのではないか。

○部会長

省エネや太陽エネルギー、あるいはごみ問題などの環境教育を行うエコスクールが流行っている。子どもたちに今あるものをベースに伝えていければ良い。

○委員

小学生時代、普段は、校区外へ出ることは原則禁止であったが、小6と小1、小5と小2が組になって、校区外の公園に遊びに行き、そうじをして帰る、また、自分で調査をして公園のごみ捨ての体験をしたことを今でも覚えている。小学生のタテのつながりをうまく利用する、小学生に体験をさせて意識づけするのは効果があると思う。

○委員

確かに、タテのつながりを利用した教育は子ども間の伝承にもなり、有効だと思う。

○部会長

例えば、ごみ箱がいっぱいで、どれくらい先にいけばごみが捨てれるかという視点は大切である。混んでいるトイレで、近くにトイレがあるということを知らせれば、トイレの混みぐあいは緩和される。必要な情報をうまく伝えることは重要である。

○委員

コンビニエンスストアのごみ箱が減ってきている。コンビニにごみ箱がないとその辺に捨ててしまう。私の地元の京橋には、ごみ箱のマップがあり、すごく便利である。

○副区長

私は、別の部会に出席したが、情報発信の仕方が大事というのは共通して意見が出されており、大きなポイントになると思う。先日立ち上がった北区資源発掘センターのHPをうまく活用してはどうか。

○副区長

北区には、他の区にはない良い所がたくさんあると思うが、区役所をはじめ情報発信が十分ではないと感じている。北区のいいところをもっと発信していきたい。

○委員

北区で作っている野菜でいえば、京都市等と連携したPR活動については、あまり不満はない。これから次世代にどう伝えていくかというのが課題である。賀茂なすは、まだいろいろ活用方法があるが、漬物をあまり食べなくなっているこのご時世では、すぐきは、このままだとジリ貧になってしまうと危惧している。

○委員

伝統産業が「伝統」になってしまったら意味がない。北区に住んでいるから、個人売りの京野菜が一番新鮮な時に手に入るというように北区は恵まれている。北区の土地の良さ、特色を生かして、今問題になっている空き家の活用を考えられないか。

○まちづくりアドバイザー

地場のものを地場で食べる地産地消は、ニーズがあり、これを畑をきれいにすることにつなげられないか。

○委員

振り売りをしているのは、年寄りが多く、売上も減ってきているため、辞める人が増えている。

○部会長

北区だからこそ住んでいるところから畑が近くて、新鮮な野菜が食べられる。そういった北区の特徴をブランディングして、うまく情報発信をして伝えていくことが必要である。

○まちづくりアドバイザー

自分のものとして北区を考えることができるか、北区にどれだけ愛着を感じているか、情報発信をしていく場、環境づくりをどう整えていくのかがポイントである。

○部会長

基本計画の環境分野に「畑」というキーワードを考えてみてはどうか。また、ごみの問題については、自分のものとして意識づけていくのに有効な視点として、小学生の体験、ごみマップ等の情報提供が挙げられていた。北区と地元が知恵を出し合って、情報発信のやり方を工夫できればよいのではないか。産業については、あまり話が出なかったが、北区ならではのものを考えていければと思う。

今日は、皆さんの思うところを自由に発言していただいたが、次回に向け、今日の議論の中心であった、情報発信の良いやり方、人と人との関わりづくりについて、日常の気づきを考えてもらえればありがたい。今回は、拡散させたので、次回はしっかりまとめていきたいと思う。

<以上>